

## 授業実施評価レポート

### 2025年度 基盤教育センター

#### 1. 2024年度の状況

##### ① 成績評価アンケート

基盤教育科目の成績評価アンケートの結果は、人間社会学部においては、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は、透明性について、1年生1名、2年生1名、客観性について、2年生1名、妥当性について、2年生1名、公平性について、2年生1名、3年生1名でした。全体としては、4項目において、そのような科目は「なかった」と回答しているものが、全体のおよそ95%以上である上、「1つ2つあった」との回答も、4項目とも5%未満となっており、おおむね良好であったと思われる。検討してほしい科目についての回答（原文のまま）では、①「哲学」 自分自身、欠席1回で成績評価Sは甘いと感じた。②入門数字でみる日本社会。③社会学 レポートの評価観点が分かりにくいいため、レポートのフィードバックをしていただきたいです。④生物 いい質問をした人ほど加点されるようなシステムのように感じた。というコメントがあったが、全体として成績評価に関するアンケート結果は良好であったと思われる。

また、看護学部においては、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は、4項目すべてにおいて2年生1名ずつでした。全体としては、4項目において、そのような科目は「なかった」と回答しているものが、91%以上であった。また、「1つ2つあった」との回答については、「透明性」で8名、「客観性」で8名、「妥当性」で6名、「公平性」で4名あり、5%前後の学生が1-2科目に何らかの改善が必要と思っていた。検討してほしい科目についての回答（原文のまま）において、①中級英語。②中級英語F、出席が自分より足りてない人が成績が高かった。テストの点も同じくらいだった。③英語クラス分けを行うことにより、テスト内容が異なるため難易度も違い、公平に成績がつけられてるとは思えない。先生によっては事前に授業でテストがあることを言ってくれないことも何度かあった。というコメントがあった。したがって、今後の課題として、特に検討してほしい科目として英語については4項目すべてについて検討が必要であると思われる。

全学的においては、成績評価アンケート結果とその対応においては、大きな問題はないと思われるが、自由記述のコメントから英語については4項目すべてについて検討が必要であると思われる。その上で、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認については、今後も継続的に取り組むこととした。

##### ② 成績分布及び受講者数

教養科目は選択必修だが、受講者が200名を超える科目がある一方、20名を下回る科目(数学概論(8名)、物理学(19名)、日本語ライティング(3名))が2023年度に続き見受けられた。「数学概論」については、データサイ

エンス・プログラムの共通基礎科目であり、高等学校教諭一種免許（情報）の取得に関わる重要な科目であるが、2023年度の15名から2024年度には8名と受講者数が減少傾向にある。この状況を受け、学期初めのガイダンスや説明会で科目の重要性を周知し、受講者数の増加を図ることとなった。さらに、「物理学」については、2023年度の履修者数は34名であったが、2024年度には19名に減少した。履修者数には年度ごとに変動がみられることも多いため、この減少は必ずしも長期的傾向を示すものではないと考えられる。そこで、物理学についても、学期初めのガイダンス等で科目の重要性を周知し、受講者数の増加を図ることとなった。「日本語ライティング」については、担当教員（非常勤）に再度学習方法や学習内容や評価方法等を検討するよう促すこととしている。

「中国語Ⅲ」については、S評価が70%を超えていた。この「中国語Ⅲ」については、受講者数も14名と少なかったうえ、2024年度の受講者の多くが、中国語学習にとっても熱心であり、かつ非常に優秀であったためであることが担当教員への聞き取りで明らかとなった。このように評価方法等に問題はないことが確認できたが、今後に向けて評価方法や成績評価方針等をより詳細に再検討することとなった。

すべて科目の成績に「不可」が多い科目はなく、学生の履修状況や科目の必要性等について、現在のカリキュラムに問題がないと思われる。

## 2. 2023年度レポート対応プランの結果

- ① 受講者が20名を下回った「数学概論」では学期始めのガイダンスやデータサイエンス・プログラムの説明会などの場で本科目の重要性を強調し、受講者数の増加に向けて取り組むことは行ったが、受講者数は8名と大きな改善は見られなかった。「宗教学」については担当教員の体調不良も回復し、後期集中講義に戻ったことで、受講者数も増加に転じたので、対応できたと思われる。
- ② 「不可」の多かった「哲学」と「哲学的人間学」において、「哲学」は、2023年度から担当している教員（非常勤講師）に評価方法の検討を促した。さらに、「哲学的人間学」については、学生の学習姿勢などを観察し、評価方法や追試験実施について検討するよう促した。その結果、上記2科目とも、2024年度は「不可」が大幅に減少し、改善されたと思われる。「経済学」については、担当教員（非常勤講師）に成績分布の点検をするよう促した結果、成績分布は改善されたと思われる。ただ、2025年度からは同科目は新しく着任する専任教員が担当するため、成績分布に関する情報を共有し、そのあり方に留意してもらうこととなっている。

「教養演習」にていては、授業開始時と成績評価をする時期に、科目責任者が担当教員に成績評価方法について慎重に確認するよう連絡をとることとなっていたが、2024年度も依然として大きな成績分布に偏りがあった。「Introduction to Studying in English」は時間割を木曜日2限から木曜日3限に変更した上、新学期のオリエンテーション以外でも一年生の英語の授業内で科目の説明を行い、受講者増加に向けて対応した。その結果、受講者数は2024年度には6名と増加したが、さらなる改善が必要かもしれない。

- ③ 「プレ・インターンシップ」は派遣先企業の場所に関わらず、この科目が企業で自らを向上させるチャンスと捉えるように促すことで受講者数の増加を目指したが、2024年度は15名と減少した。さらなる受講生を増やすための努力が必要かもしれない。

### 3. 対応プラン

- ① 教養科目は選択必修だが、受講者が200名を超える科目がある一方、20名を下回る科目(数学概論(8名)、物理学(19名)、日本語ライティング(3名))が2024年度でも見受けられた。「数学概論」については、学期始めのガイダンスやデータサイエンス・プログラムの説明会などの場で本科目の重要性を強調し、受講者数の増加に向けて取り組むこととする。「物理学」については、2023年度の履修者数は34名であったが、2024年度には19名に減少した。受講者数には年度ごとに変動がみられることも多いため、この減少が必ずしも長期的傾向を示すものではないと考えられる。物理学は教養科目の自然科学の中でも基礎的かつ重要な科目であることから、学期初めのガイダンス等で科目の重要性を周知し、受講者数の増加に向けて取り組むこととする。「日本語ライティング」については、担当教員(非常勤講師)に再度、学習方法や学習内容及び評価方法等を検討してもらうよう促すことで対応する。
- ② 「教養演習」は、授業開始直前及び成績評価をする時期において、科目責任者が教養演習担当教員に対し、適切かつ公平な成績評価方法について慎重に確認するよう連絡をとることとした。
- ③ 成績評価アンケート結果における自由記述のコメントから、英語科目については成績評価における4項目(透明性、客観性、妥当性、公平性)すべてについて再検討が必要であると思われる。その上で、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認については、丁寧にかつ継続的な説明にて対応する。

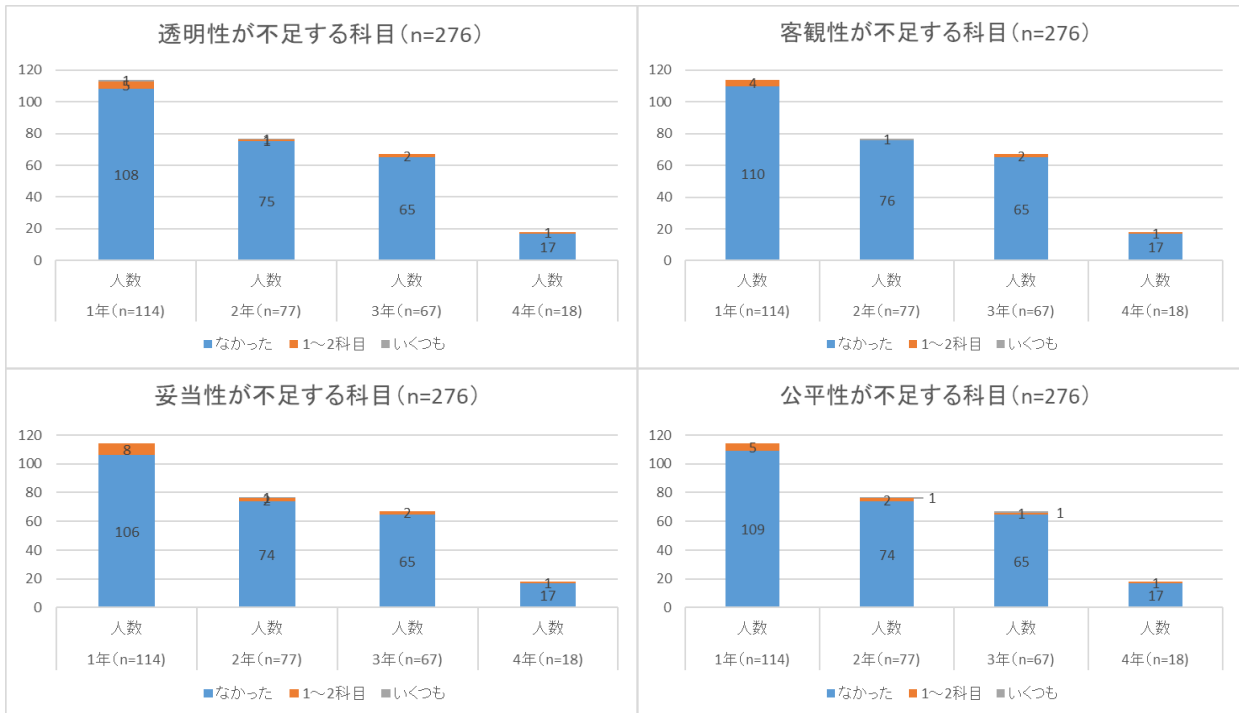
#### 添付資料

- ・人間社会学部における基盤教育科目の成績評価アンケート結果
- ・看護学部における基盤教育科目の成績評価アンケート結果
- ・基盤教育センター科目 受講者数及び受成績結果状況報告

(成績分布のグラフは科目数が160科目以上と非常に多いため、さらに別ファイルとして添付)

# 人間社会学部における基盤教育科目の成績評価アンケート結果報告

## 1. 基盤教育科目成績評価アンケートの結果



## 2. 結果について

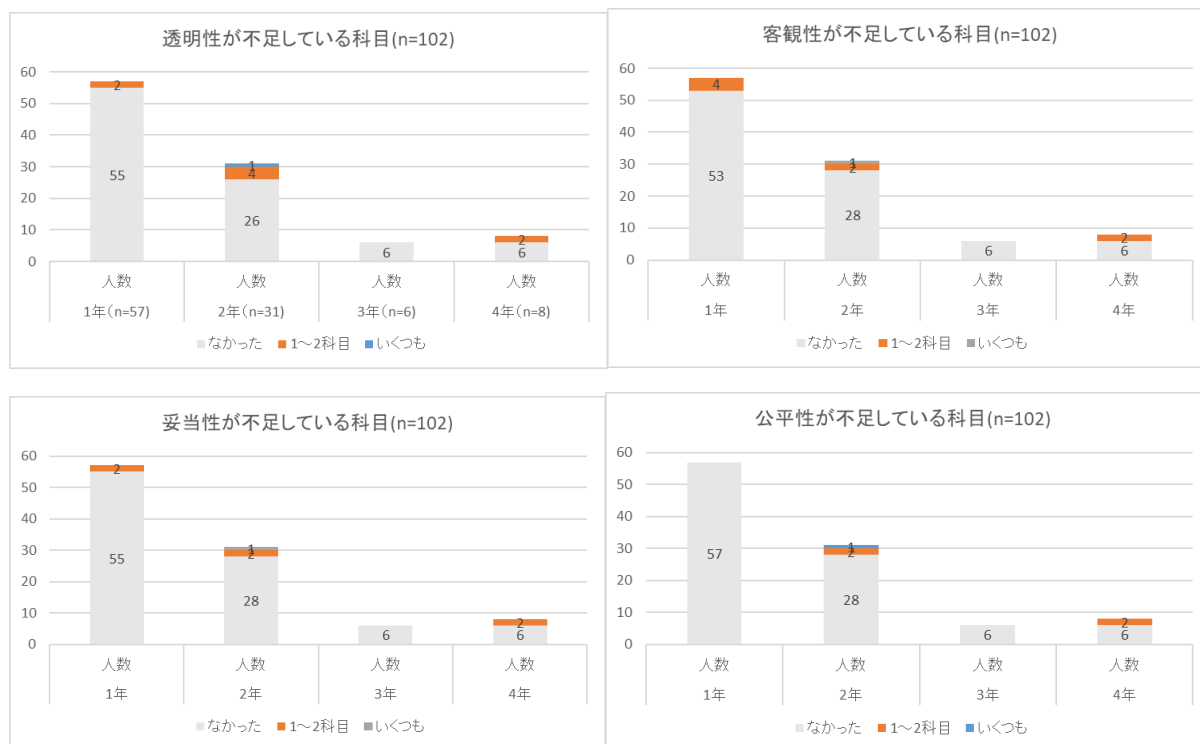
1. 人間社会学部では、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は、透明性について、1年生1名、2年生1名、客観性について、2年生1名、妥当性について、2年生1名、公平性について、2年生1名、3年生1名でした。全体としては、4項目において、そのような科目は「なかった」と回答しているものが、全体のおよそ95%以上である上、「1つ2つあった」との回答も、4項目とも5%未満となっており、おおむね良好であったと思われる。

## 3. 検討してほしい科目についての回答

- ①「哲学」 自分自身、欠席1回で成績評価Sは甘いと感じた。
- ②入門.数字でみる日本社会
- ③社会学 レポートの評価観点が分かりにくいいため、レポートのフィードバックをしていただきたいです。
- ④生物 いい質問をした人ほど加点されるようなシステムのようなようだった。

# 看護学部における基盤教育科目の成績評価アンケート結果報告

## 1.基盤教育科目成績評価アンケートの結果



## 2.結果について

1. 看護学部では、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は、4項目すべてにおいて2年生1名ずつでした。全体としては、4項目において、そのような科目は「なかった」と回答しているものが、91%以上であったが、「1つ2つあった」との回答については、「透明性」で8名、「客観性」で8名、「妥当性」で6名、「公平性」で4名あり、5%前後の学生が1-2科目に何らかの改善が必要と思っていると思われる。

特に検討してほしい科目から、英語については4項目について検討が必要かもしれない。

## 3.検討してほしい科目についての回答

### ①中級英語

②中級英語F、出席が自分より足りてない人が成績が高かった。テストの点も同じくらいだった。

③英語クラス分けを行うことにより、テスト内容が異なるため難易度も違い、公平に成績がつけられてると思えない。先生によっては事前に授業でテストがあることを言ってくれないことも何度かあった。

## 基盤教育センター科目 受講者数及び成績結果状況報告

2024年度の基盤教育センターの各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

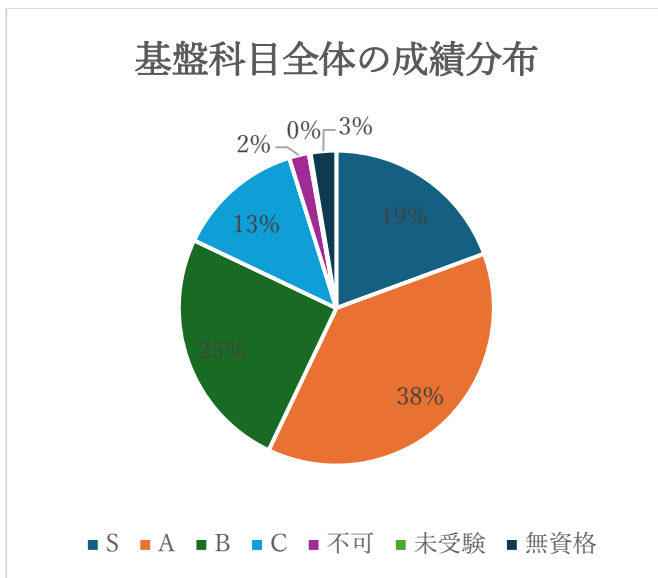
### 結果について

1. 教養科目は選択必修だが、受講者が200名を超える科目がある一方、20名を下回る科目(数学概論(8名)、物理学(19名))が昨年度に続き見受けられた。科目の必要性や妥当性について再検討してください。
2. 成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 教養演習では、36教員中9教員で成績Sが受講者の70%を超えていた。そのうち、1教員においては、Sが100%であった。評価方法や成績評価方針について、再度検討及び教員への成績評価方法の周知が必要であると思われます。
4. 中国語Ⅲにおいて、成績Sが受講者の70%を超えていた(11名/14名)。評価方法や成績評価方針について確認をしてください。

※ 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。また強化あるいは変更したほうが良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

(添付資料)

### (1) 基盤教育センター担当科目全体での成績分布



### (2) 各授業の成績分布

科目数が多いため、図表ファイルとしての別ファイルを参照。(名称：2024基盤科目成績分布グラフ)

# 基盤教育センター科目成績分布

■ S ■ A ■ B ■ C ■ 不可 ■ 未受験 ■ 無資格

